



**第3次  
沖縄県がん対策推進計画  
(2018-2023)**

# 第3次沖縄県がん対策推進計画 (2018-2023)

## 目次

### はじめに

- 1 計画策定の趣旨、性格と位置づけ及び期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 県のがんを取り巻く状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

### 第1章 全体目標

- 1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 2 患者本位のがん医療の実現・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 3 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

### 第2章 分野別施策と個別目標

- 1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実  
(1) がんの予防・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17  
(2) がんの早期発見、がん検診・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 2 患者本位のがん医療の実現  
(1) がん医療と人材育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26  
(2) 医療提供体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32  
(3) 在宅医療・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35  
(4) 緩和ケア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37  
(5) ライフステージに応じたがん対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39  
(6) それぞれのがんの特性に応じた対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42  
(7) 離島及びへき地対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
- 3 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築  
(1) 相談支援と情報提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46  
(2) がん患者等の就労を含めた社会的な問題（サバイバーシップ支援）・・ 48  
(3) がんの教育・普及啓発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

### 第3章 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- 1 がん登録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
- 2 計画の進捗管理体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54

# 第3次がん対策推進計画(2018-2023) 概要

## 1 計画策定の趣旨

生活習慣の改善やがん検診の受診勧奨を始めとするがんの予防・早期発見対策や、がん診療連携拠点病院等を中心とした専門的ながん医療の提供、がん患者等に対する相談支援体制の整備を図るなど、総合的かつ計画的にがん対策を推進するため、第3次沖縄県がん対策推進計画(2018-2023)を策定。

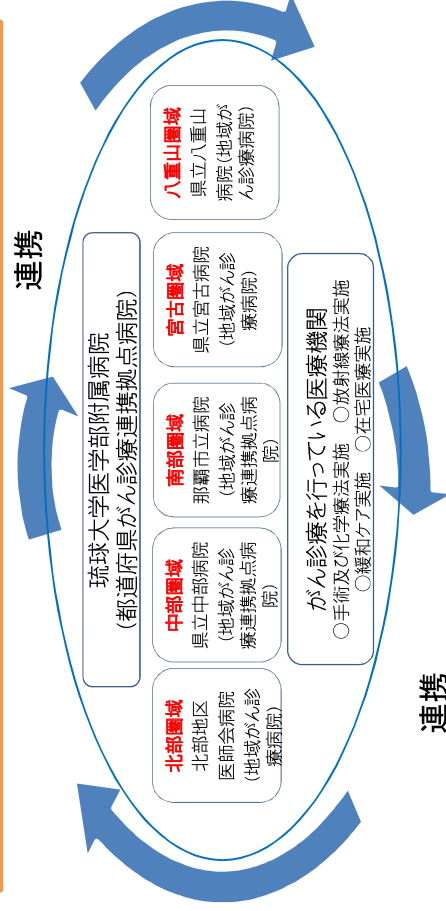
## 2 計画の位置づけ

- がん対策基本法に基づく「都道府県がん対策推進計画」。
- 「沖縄21世紀ビジョン基本計画・実施計画」の個別計画として、基本計画及び実施計画で掲げる施策展開を図る。
- 関係個別計画等と整合するがん対策の推進に関する計画。
  - 沖縄県医療計画・健康おきなわ21
  - 沖縄県高齢者保健福祉計画
- 県の今後のがん対策の基本的な施策を示すもの。
- 市町村のがん対策の行政施策の指針となるもの。
- 県民、保健医療団体等には、その自主的な活動、行動を推進する役割。
- 計画期間は、2018年から2023年までの6年間。
- がん医療を取り巻く環境に著しい変化が生じた場合は、内容を見直す。

## 3 進化管理

- 計画の進捗管理に関するPDCAサイクルを回し、施策に反映。
- 計画の進捗管理のため、3年を中途に中間評価を行う。

## がん診療連携体制



## 4 がん対策推進計画の主な項目

### 第1章 全体目標

75歳未満年齢調整死亡率 (人口10万人あたり)			
	現状	目標	差
男女	73.3	65.0	8.3

- 1 科学的根拠に基づき、がん予防・がん検診の充実
- 2 患者本位のがん医療の実現
- 3 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

### 第2章 分野別施策

喫煙率		目標
現状	29.6	半減
男	7.8	

- 1 科学的根拠に基づき、がん予防・がん検診の充実
  - (1)がんの予防
  - (2)がんの早期発見、がん検診

がん検診受診率		目標
現状	41.4	50%
胃	35.6	
大腸	43.6	
子宮	47.5	
乳	50.7	

- 2 患者本位のがん医療の実現
  - (1)がん医療と人材育成
  - (2)医療提供体制
  - (3)在宅医療
  - (4)がんが診断された時からの緩和ケア
  - (5)ライフステージに応じたがん対策
  - (6)希少がん、難治性がん(それぞれの特性に応じた対策)
  - (7)離島及びへき地対策



- 3 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築
  - (1)相談支援、情報提供
  - (2)がん患者等の就労を含めた社会的な問題
  - (3)がんの教育、普及啓発

### 第3章 総合的かつ計画的に推進するための必要事項

- 1 がん登録について
- 2 計画の進捗管理体制について

## はじめに

### 1 計画策定の趣旨、性格と位置づけ及び期間

#### (1) 計画策定の趣旨

国は、平成 24 年 6 月に「第 2 期がん対策推進基本計画」を見直し、がん対策基本法（以下、「基本法」という。）第 10 条第 7 項の規定に基づき、第 3 期の基本計画を策定し、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」ことを目標とし、取り組むべき施策を定めました。

県では、平成 24 年 8 月に基本法の趣旨を踏まえ、がんの予防及び早期発見により、県民の健康保持を図るとともに、がん患者及びその家族の療養生活に伴う様々な不安の軽減を図るため、がん対策に関する基本的な事項を定めた「沖縄県がん対策推進条例」（以下、「条例」という。）を定めました。

県はこれまで、生活習慣の改善やがん検診の受診勧奨を始めとするがんの予防・早期発見対策や、がん診療連携拠点病院等を中心とした専門的ながん医療の提供、がん患者等に対する相談支援体制の整備を図るなど、様々な取り組みを行ってきました。しかし、平成 28 年度に実施した沖縄県がん対策推進計画（第 2 次）の中間評価では、がんの 75 歳未満年齢調整死亡率（人口 10 万対）の 20%減少を達成できなかったことや、がん検診受診率について、大腸がん及び子宮頸がんでは目標を達成できなかったことなど、課題が残されています。

県ではこうした状況を踏まえ、総合的かつ計画的にがん対策を推進することを目的に、沖縄県がん対策推進計画（第 2 次）を変更し、第 3 次沖縄県がん対策推進計画（2018-2023）としました。

#### 国と沖縄県のがん対策の動向

平成 19 年 4 月	がんが国民の生命と健康にとって重大な課題となっている状況を受け、がん対策のより一層の推進を図るため、「がん対策基本法」が施行された。
平成 19 年 6 月	国は基本法に基づき、「がん対策推進基本計画」を策定した。
平成 20 年 3 月	県は基本法に基づき、「沖縄県がん対策推進計画」を策定した。
平成 21 年 12 月	県は、同計画の具体的取組みと実施主体を明らかにした「沖縄県がん対策推進計画アクションプラン」を策定した。
平成 24 年 6 月	国は「がん対策推進基本計画」を変更し、「第 2 期がん対策推進基本計画」とした。
平成 25 年 4 月	県は「沖縄県がん対策推進計画」を変更し、「沖縄県がん対策推進計画（第 2 次）」とした。
平成 28 年 12 月	基本法の一部を改正する法律が施行された。
平成 29 年 10 月	国は「がん対策推進基本計画」を変更し、「第 3 期がん対策推進基本計画」とした。
平成 30 年 3 月	県は「沖縄県がん対策推進計画」を変更し、「第 3 次沖縄県がん対策推進計画（2018 - 2023）」とした。

## (2) 計画の性格と位置づけ

- 本計画は、基本法第12条第1項に基づく「都道府県がん対策推進計画」として策定するものです。
- 条例の内容を踏まえるとともに、県の総合的な基本計画である「沖縄21世紀ビジョン基本計画・実施計画」に沿って、保健医療分野におけるがん対策のきめ細かな施策・事業展開を図ります。
- 沖縄県がん対策推進計画は、「沖縄21世紀ビジョン基本計画・実施計画」の個別計画として、基本計画及び実施計画で掲げる施策展開を図るほか、以下の関係個別計画等と整合するがん対策の推進に関する計画です。
  - ・ 沖縄県医療計画
  - ・ 健康おきなわ21
  - ・ 沖縄県高齢者保健福祉計画
- この計画は、県のがん対策の基本的な施策を示すものです。
- この計画は、市町村のがん対策の行政施策の指針となるものです。
- この計画は、県民、保健医療団体等に対しては、その自主的な活動、行動を推進する役割をもつものです。

## (3) 計画の期間

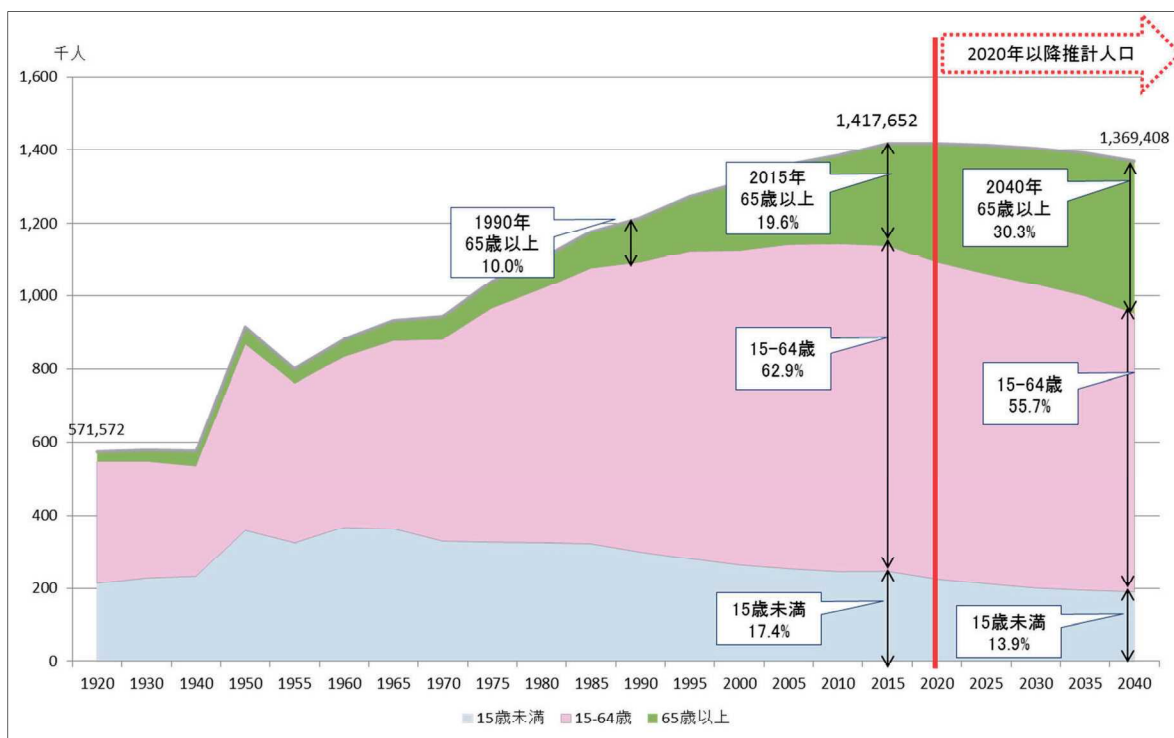
- 本計画の期間は、平成30(2018)年度から平成35(2023)年度までの6年程度とします。
- 計画期間内であっても、がん医療を取り巻く環境に著しい変化が生じた場合には、計画の内容を見直します。



## 2 県のがんを取り巻く状況

### (1) 人口の推移（年齢3区分別人口の推移と将来推計人口）

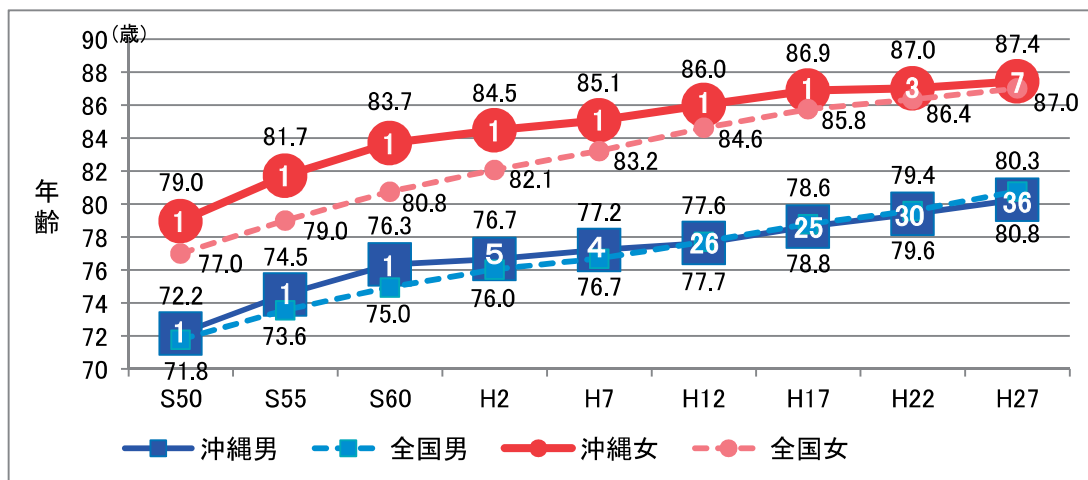
県の年齢3区分別人口は、平成2（1990）年に65歳以上の割合は10.0%、平成27（2015）年に約20.0%、2040年は、約30%と推計されています。高齢化に伴い、がんによる死亡は今後も増加していくことが推測されます。



出典 1920-2015 は、国勢調査結果 2020-2040 は国立社会保障・人口問題研究所による推計

### (2) 平均寿命

県の平均寿命は、昭和50(1975)年は男72.2歳、女79.0歳から、平成27(2015)年男80.3歳、女87.4歳へ延伸しています。



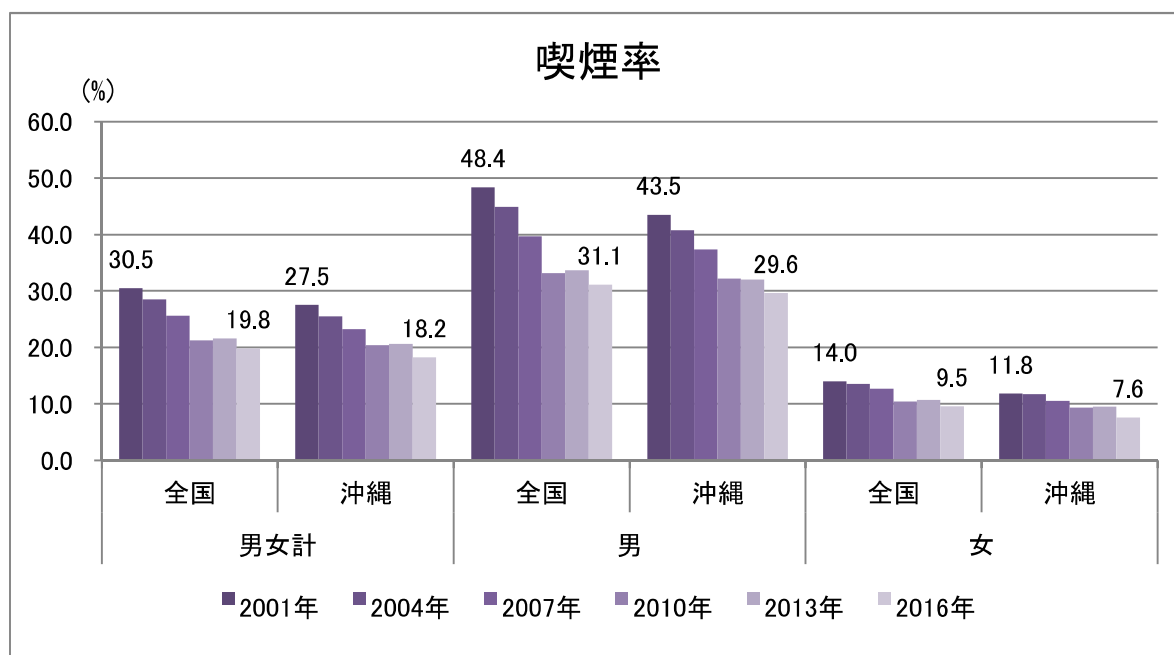
出典：都道府県生命表の概況

### (3) がんの予防

#### ア 喫煙率

喫煙は、肺がんをはじめ胃がん、大腸がん、乳がん等多くのがんに関連することが示されています。また、喫煙者は非喫煙者に比べて、がんになるリスクが約1.5倍高まることもわかっています。

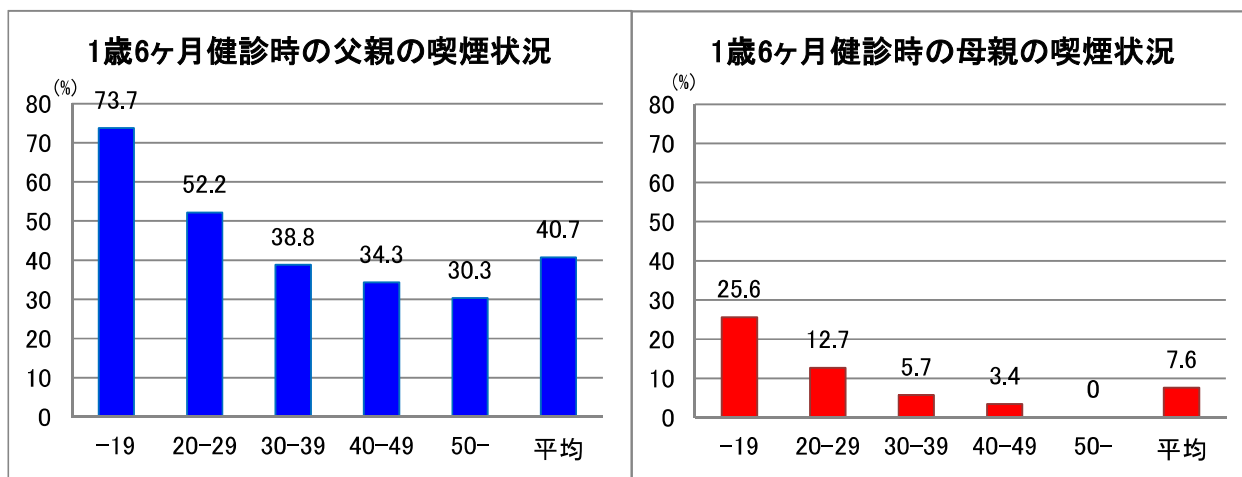
喫煙率は、男女ともに全国よりも低く推移しており、全体的に低下しています。



出典：国民生活基礎調査

※「喫煙者」とは、「毎日吸っている」または「時々吸う日がある」者をいう。

平成 27(2015) 年度 1 歳 6 ヶ月健診時の両親の喫煙状況は父親約 40%、母親は 7.6% となっています。



出典：平成 27 年度 乳幼児健康診査報告（子育ての姿勢・環境）沖縄県小児保健協会  
 （集計対象者：父母各約 14, 000 ～ 15, 000 人、但し、母の 50 歳代は 10 人以下）

## イ がん検診

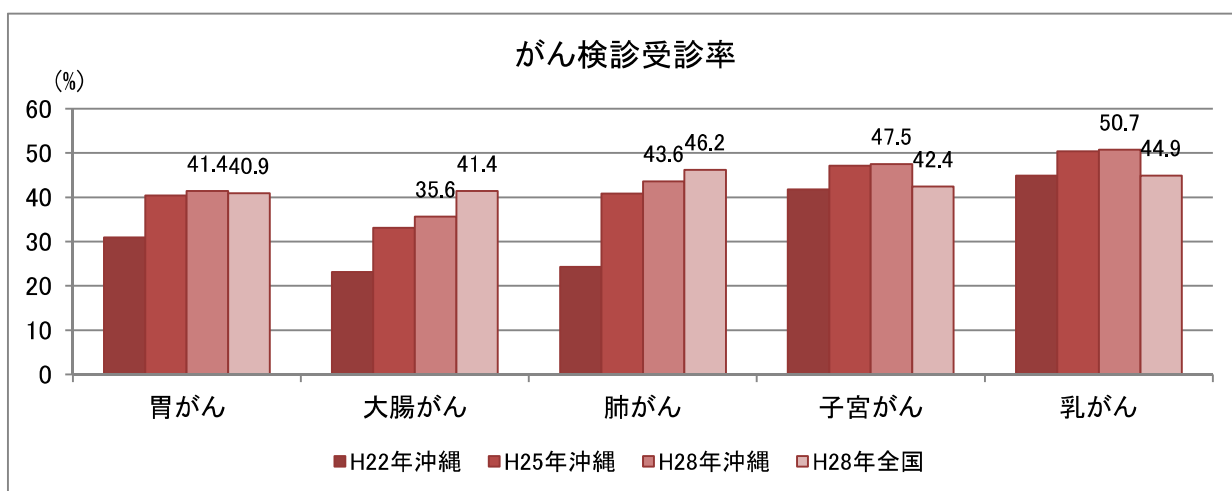
### (ア) 受診率

国民生活基礎調査（アンケートによるすべてのがん検診受診率<sup>※</sup>）による受診率（算定年齢：40歳（子宮がん20歳）から69歳）は、全体では微増しており、乳がん検診が50.7%、胃がん、肺がん、子宮がんについては40%台、大腸がんは35.6%となっています。

平成27（2015）年度地域保健・健康増進事業報告（市町村実施がん検診受診率）による受診率は、胃がん5.5%、肺がん12.9%、大腸がん10.8%、子宮がん22.8%<sup>※</sup>、乳がん18.8%<sup>※</sup>となっています。

※すべてのがん検診とは、住民検診、職域検診、人間ドック、かかりつけ医での受診等

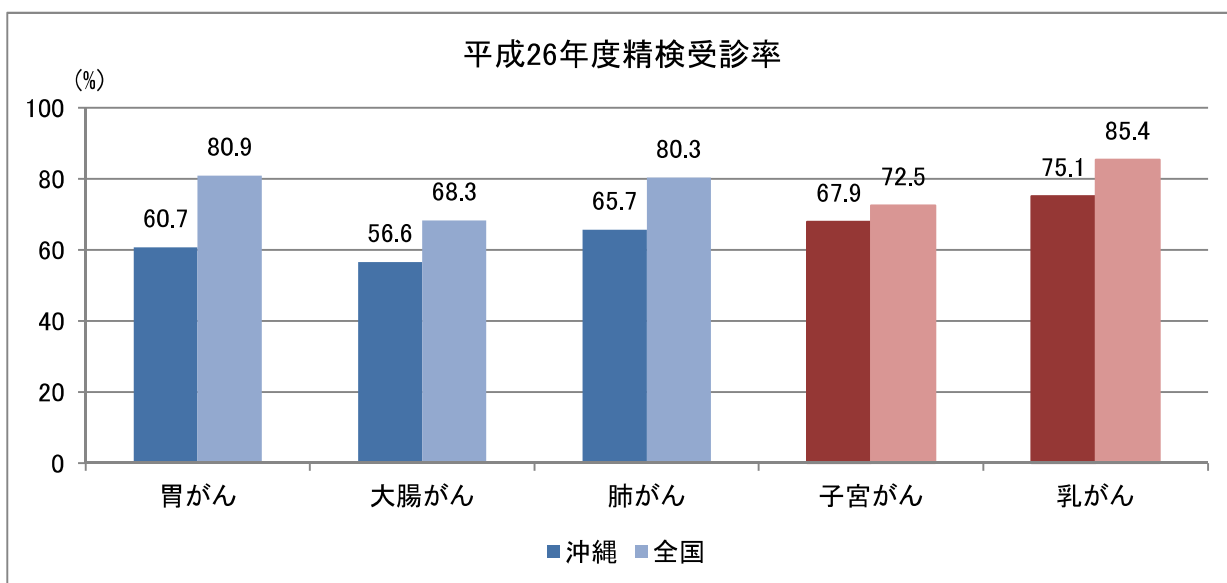
※子宮がん検診と乳がん検診は、2年に1回の受診率



出典：平成28年国民生活基礎調査

### (イ) 精検受診率（算定年齢：40歳（子宮がん20歳）から74歳）

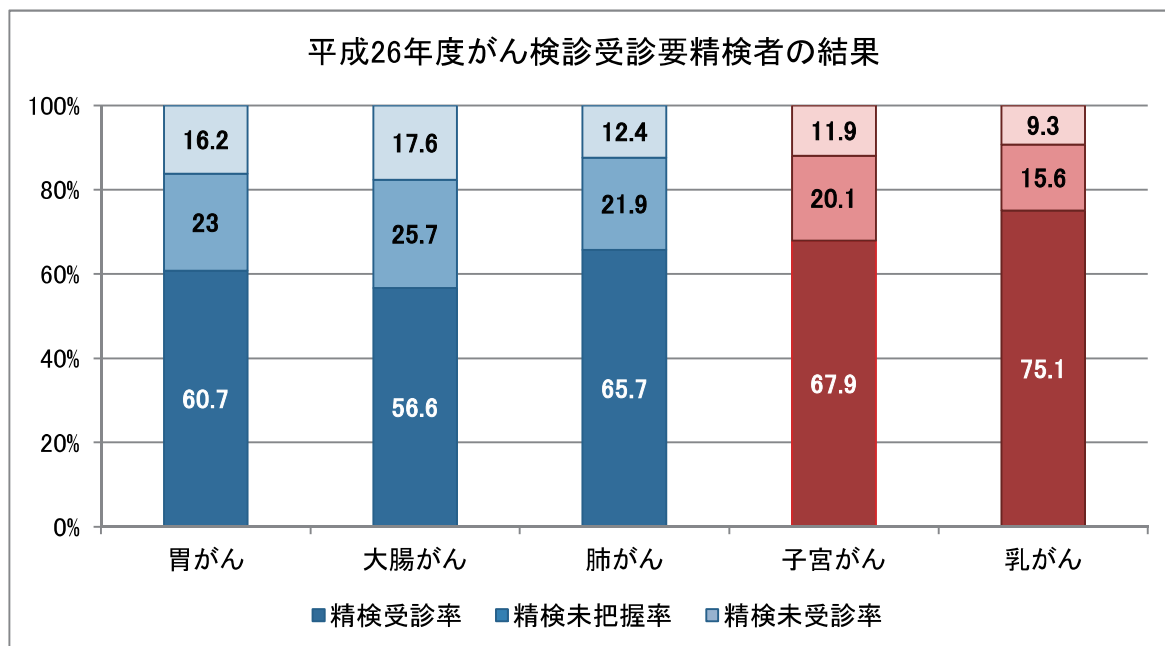
地域保健・健康増進事業報告による精検受診率は、全国より低い状況にあります。



出典：平成27年度地域保健・健康増進事業報告



精検未受診率は、乳がんを除き 10% 以上、未把握率が 20% 以上と高く、また、大腸がんが最も高くなっており、精検受診後の把握ができていない状況となっています。

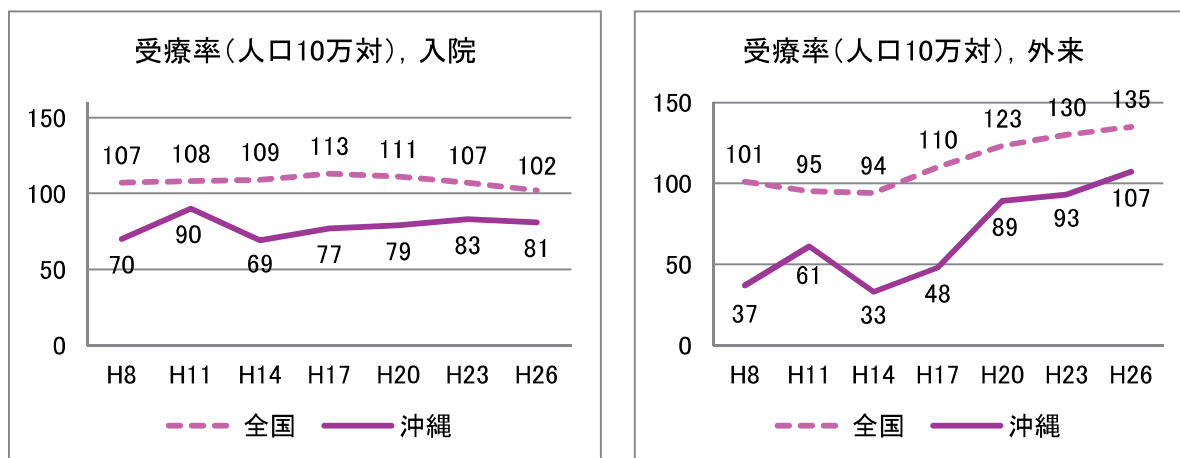


出典：平成 27 年地域保健・健康増進事業報告

#### (4) がんの罹患状況

##### ア 受療状況

患者調査によると、入院・外来ともに全国よりも低く、外来においては、平成 8(1996) 年 37 人、平成 26 (2014) 年は 107 人と約 3 倍となっていることから、外来でのがん治療等が増加しています。

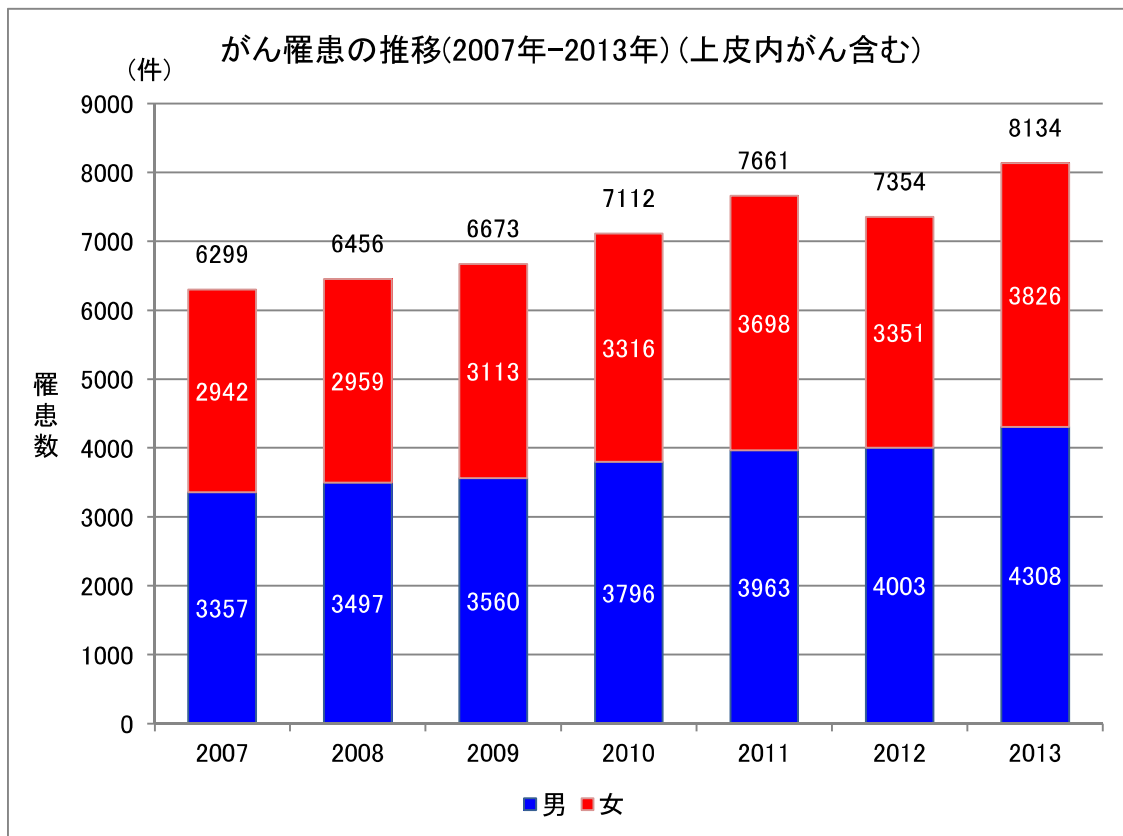


出典：患者調査

平成 11 年 - 平成 26 年下巻第 17 表受療率 (人口 10 万対),  
入院-外来・施設の種類×傷病分類×都道府県別 平成 8 年中巻第 19 表

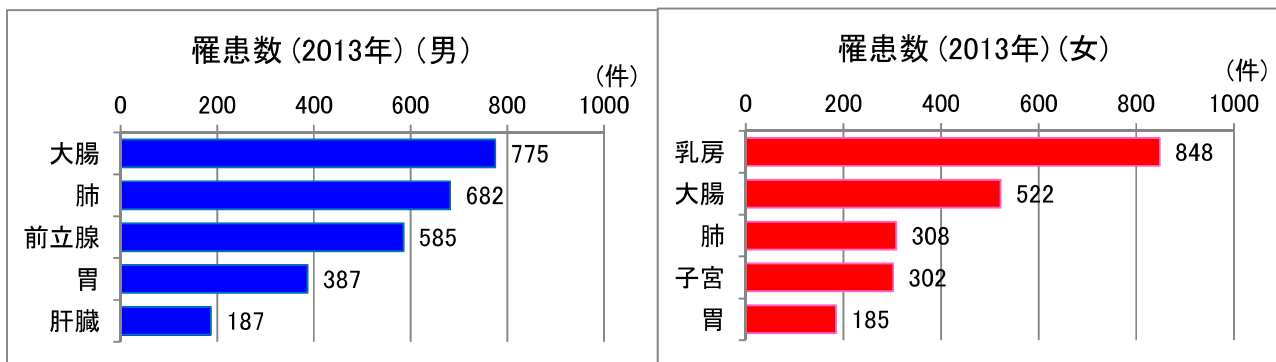
イ がん罹患状況

沖縄県がん登録事業報告平成 25（2013）年集計による、がんの罹患（全年齢、上皮内がん含む）は増加しており、県で新たにがんと診断されている件数は、男 4,308 件、女 3,826 件で合計 8,134 件となっています。



出典：平成 29 年度沖縄県がん登録事業報告

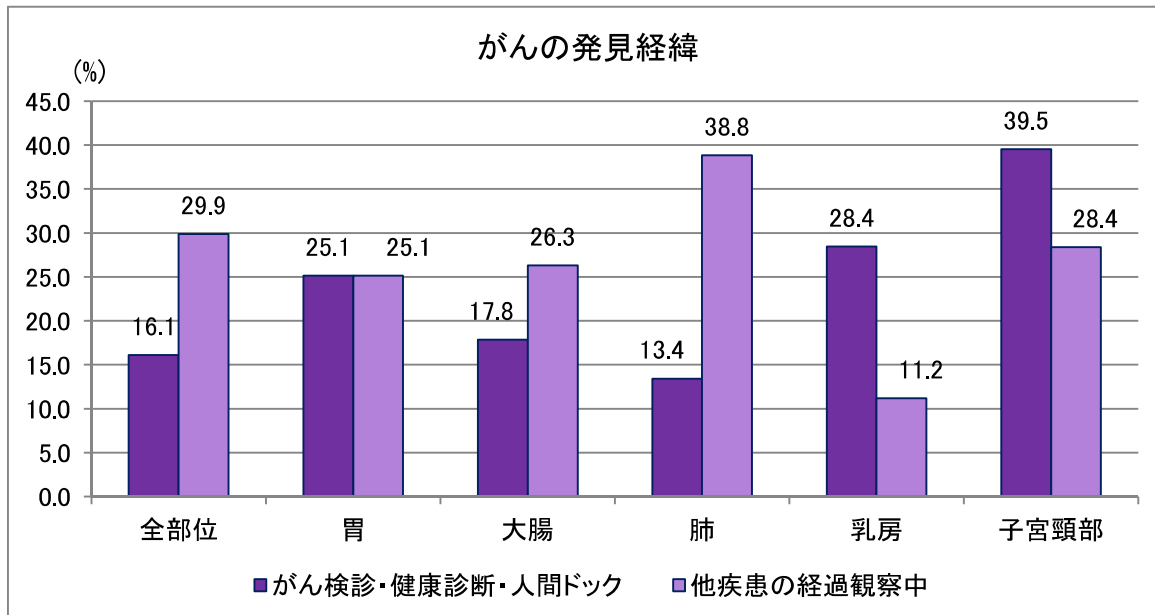
主な部位別（全部位・上皮内がん除く）の罹患数は、男で最も多い部位は大腸であり、肺、前立腺、胃、肝および肝内胆管の順となっています。女で最も多い部位は乳房であり、大腸、肺、子宮、胃の順となっています。



出典：平成 29 年度沖縄県がん登録事業報告

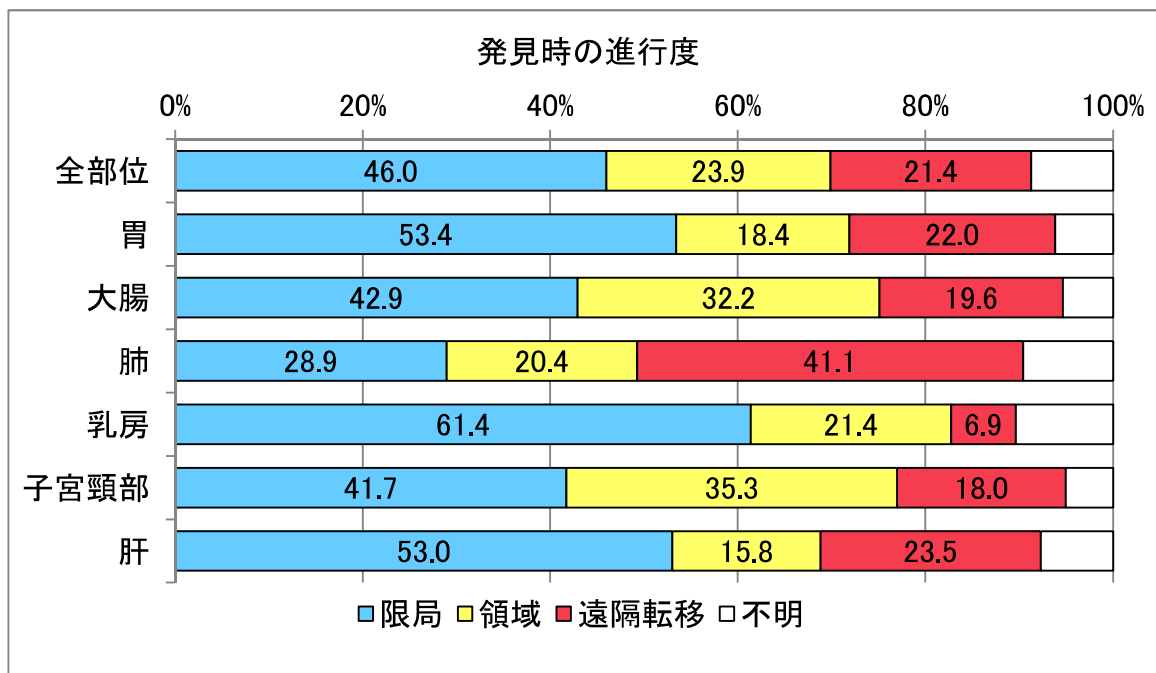
## 県のがんを取り巻く状況

「がん検診及び健診・人間ドック」からのがんの発見は、子宮頸部で39.5%と最も高く、肺が13.4%と最少となっています。「他疾患の経過観察中」に発見された部位は、肺が最も高くなっています。



出典：平成29年度沖縄県がん登録事業報告

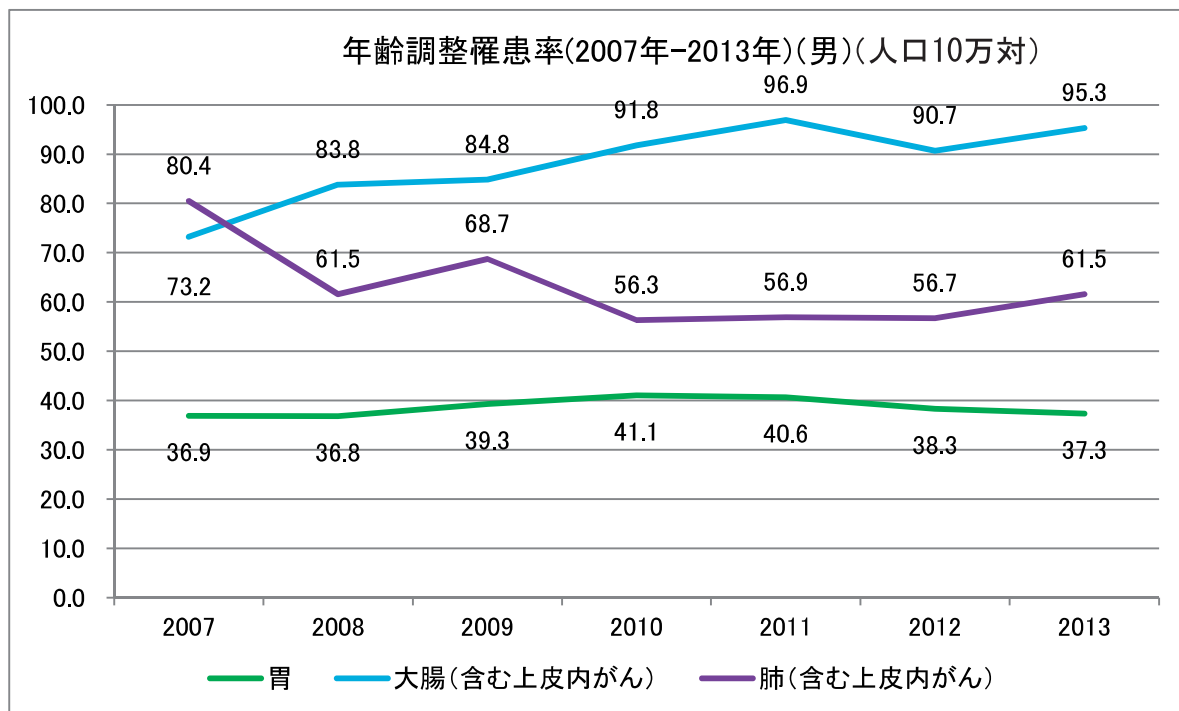
発見時の進行度は、乳がん61.4%で限局が最も高く、次に胃、肝、大腸、子宮頸の順となっており、肺がんが28.9%で最も低くなっています。



出典：平成29年度沖縄県がん登録事業報告

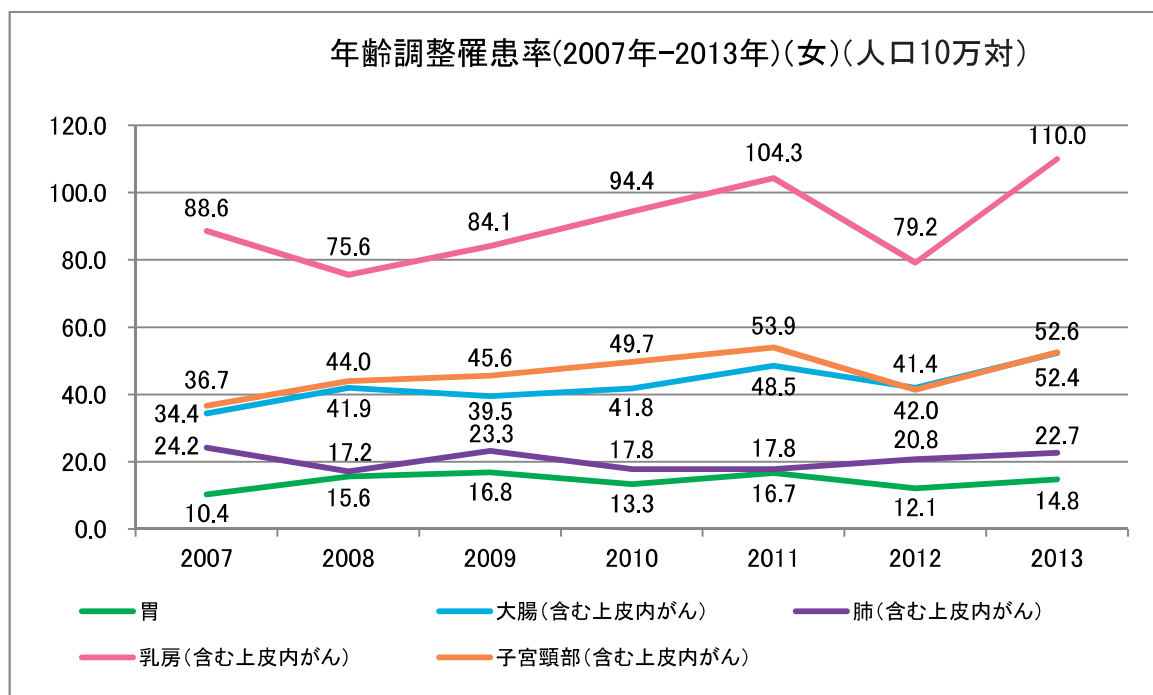
※進行度は、がんが診断された時点における病巣の広がり  
 ※領域とは、がんが、所属リンパ節転移及び隣接臓器浸潤の状態。

男の罹患は、大腸が平成 19(2007)年 73.2 から平成 25(2013)年 95.3 に増加し、肺は 80.4 から 61.5 に減少、胃は横ばいの状況で推移しています。



出典：平成 29 年度沖縄県がん登録事業報告

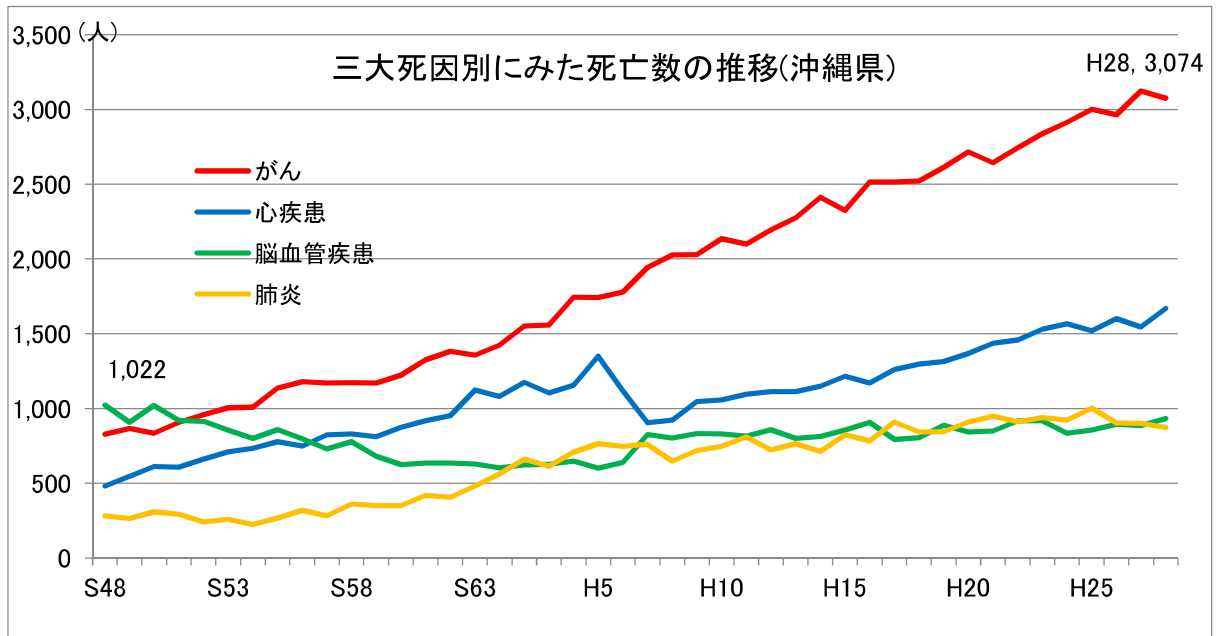
女の罹患は、乳房が平成 19(2007)年 88.6 から平成 25(2013)年 110 に、子宮頸は 36.7 から 52.6、大腸は 34.4 から 52.4 と増加傾向にあり、胃及び肺は横ばい状態で推移しています。



出典：平成 29 年度沖縄県がん登録事業報告

(5) がんの死亡状況

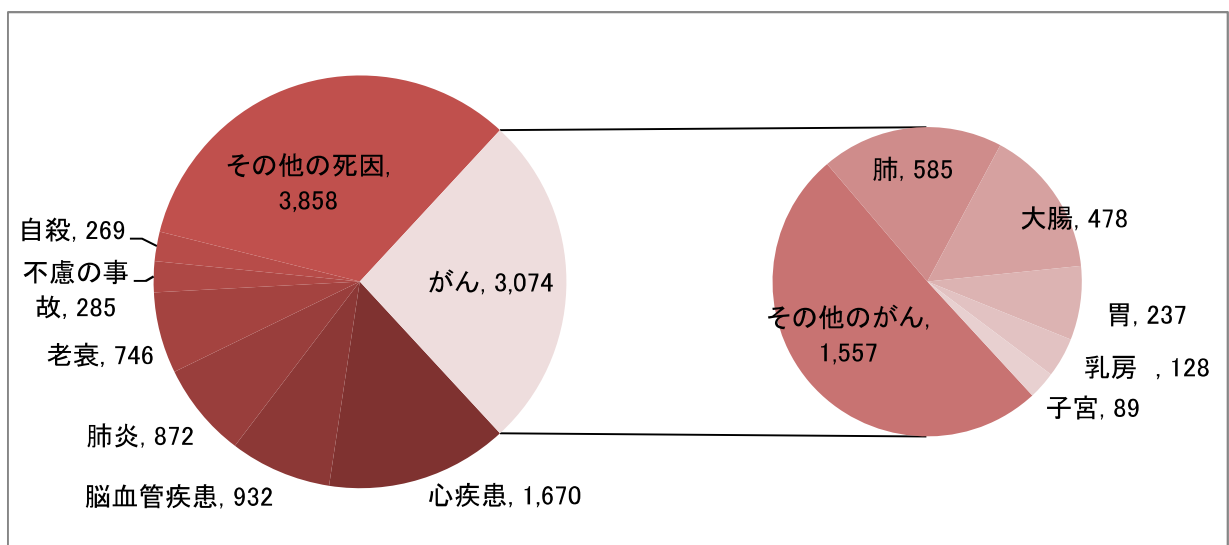
県のがんによる死亡は全国より4年早く、昭和52(1977)年以降、死因別でがんが1位になり、その後増加しています。



出典：平成28年人口動態統計

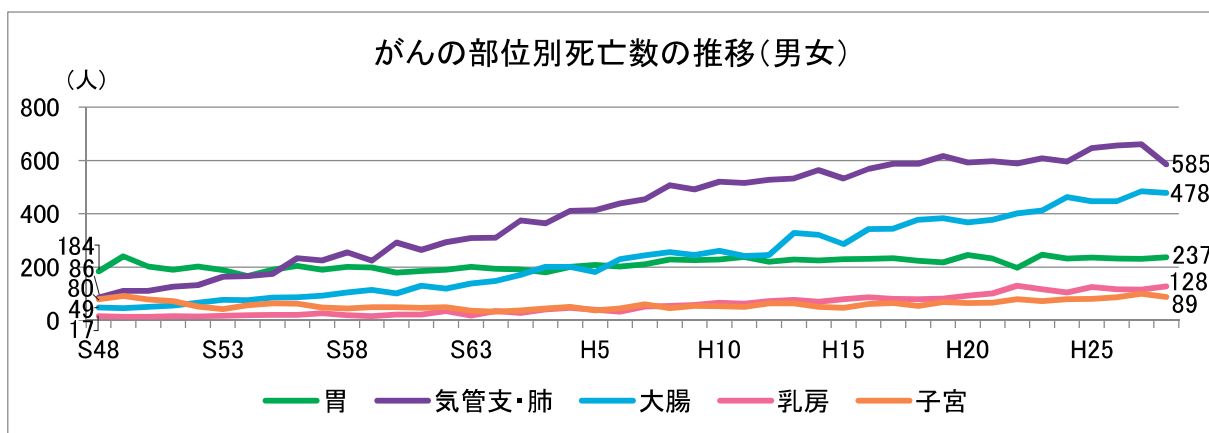
平成28(2016)年のがん死亡状況

平成28(2016)年の県の全死亡は11,706人で、がんによる死亡数は3,074人で、26.3%を占めています。部位別は、肺が最多、次に大腸となっています。



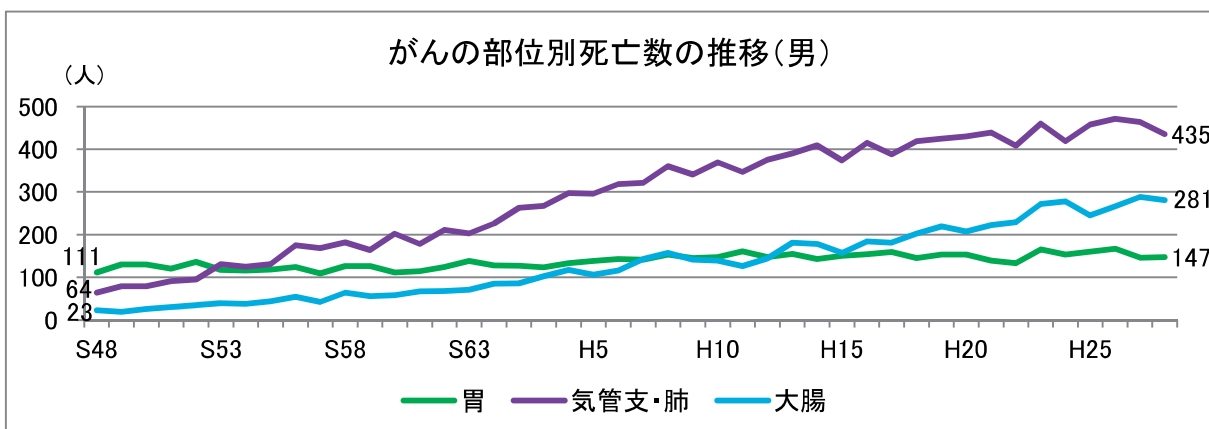
出典：平成28年人口動態統計

県のがんによる死亡数の部位別状況は気管支・肺は昭和48(1973)年80人から平成28(2016)年は585人、大腸は49人から478人へ増加しています。



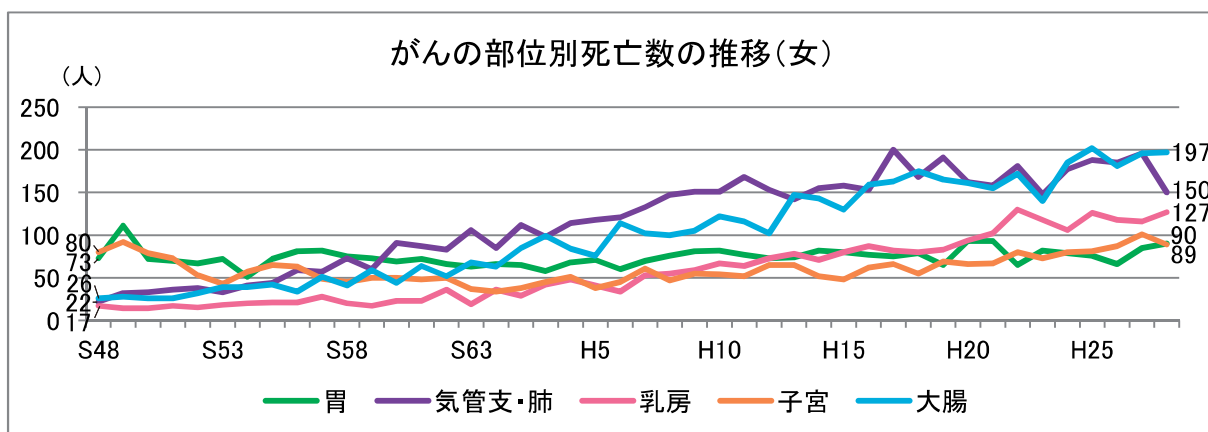
出典：人口動態統計

県の男のがんによる死亡数の部位別状況は気管支・肺は昭和48(1973)年64人から平成28(2016)年は435人、大腸は23人から281人へ増加しています。



出典：人口動態統計

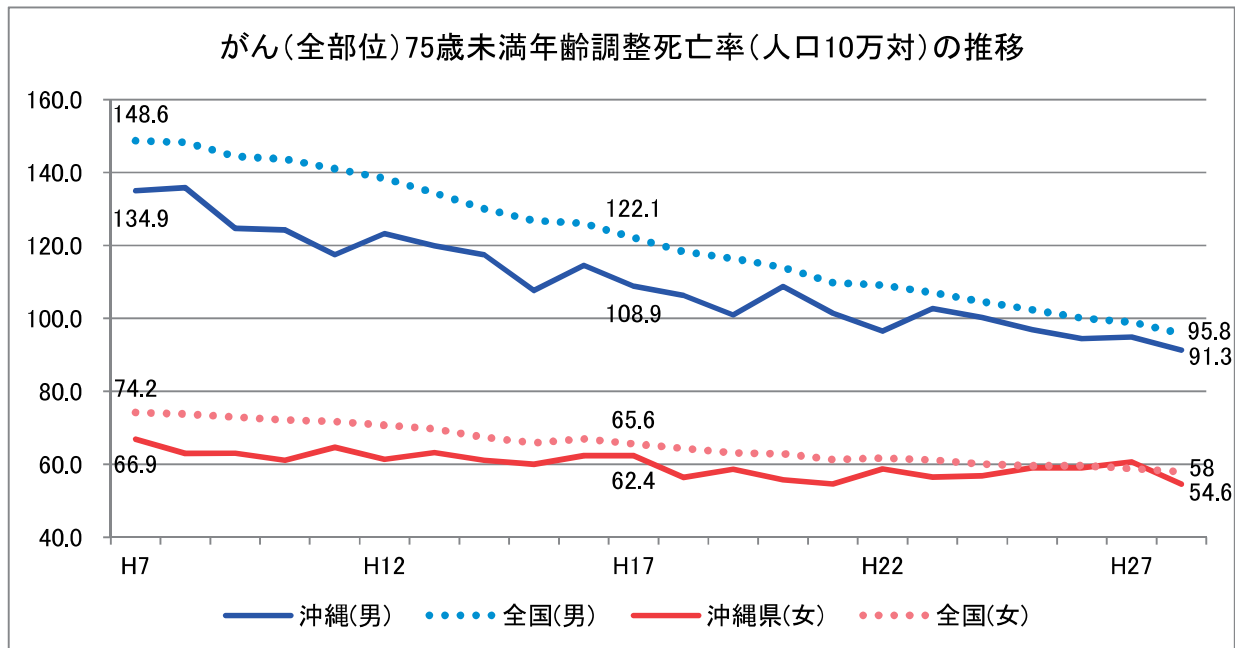
県の女のがんによる死亡数の部位別状況は気管支・肺は昭和48(1973)年22人から平成28(2016)年は150人、大腸は26人から197人へ増加しています。子宮は80人から89人、乳房は17人から127人となっています。



出典：人口動態統計

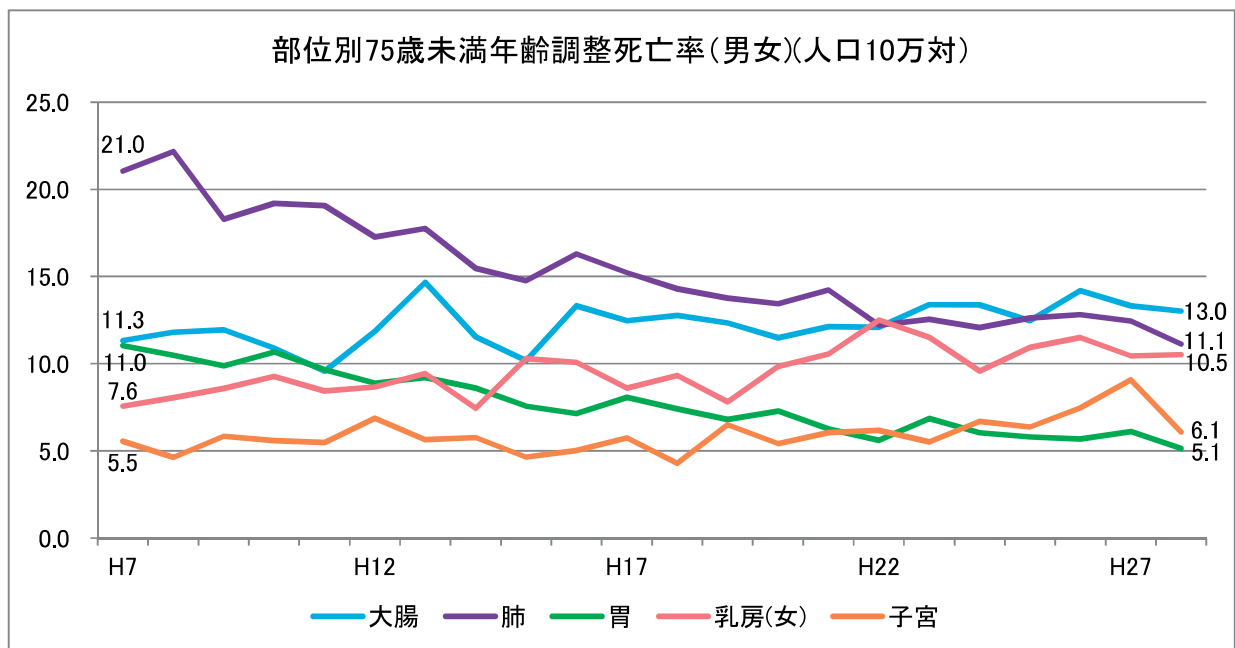
75歳未満年齢調整死亡率（人口10万人対）

がん死亡（全部位）の75歳未満年齢調整死亡率（人口10万人対）の年次推移は、平成7（1995）年から平成28（2016）年の約20年間で、男女ともに減少傾向にあります。



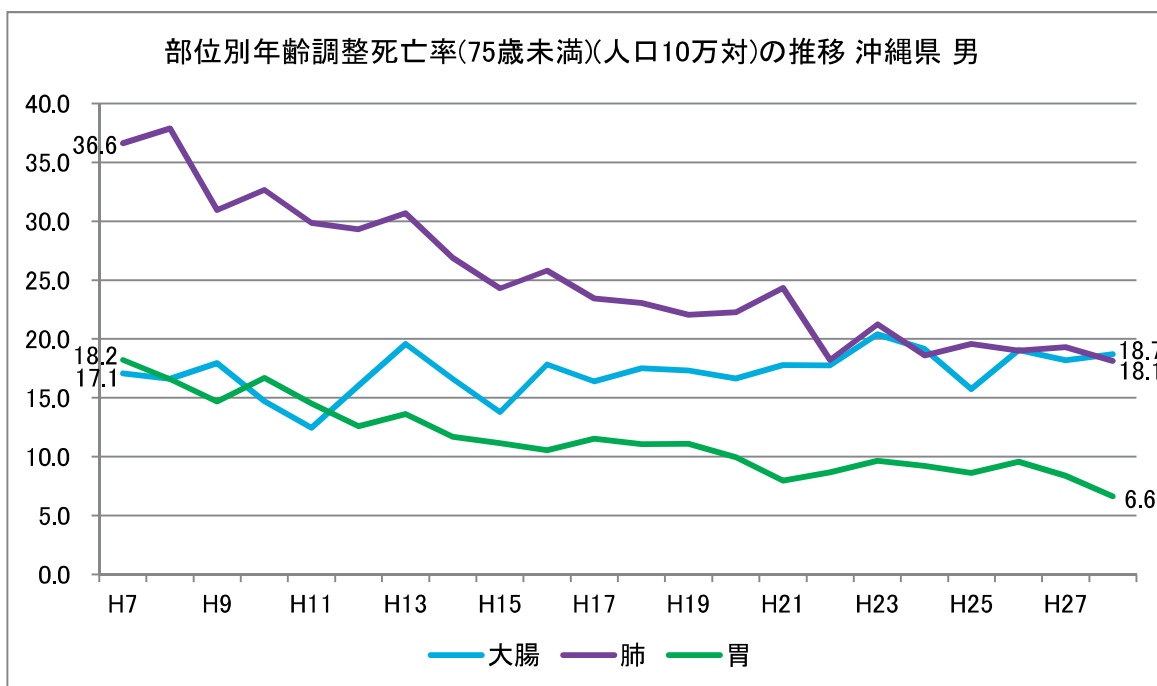
出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

部位別75歳未満年齢調整死亡率（人口10万人対）は、肺は平成7（1995）年の21.0から平成28（2016）年の11.1へ減少しており、大腸、乳房、子宮が増加しています。



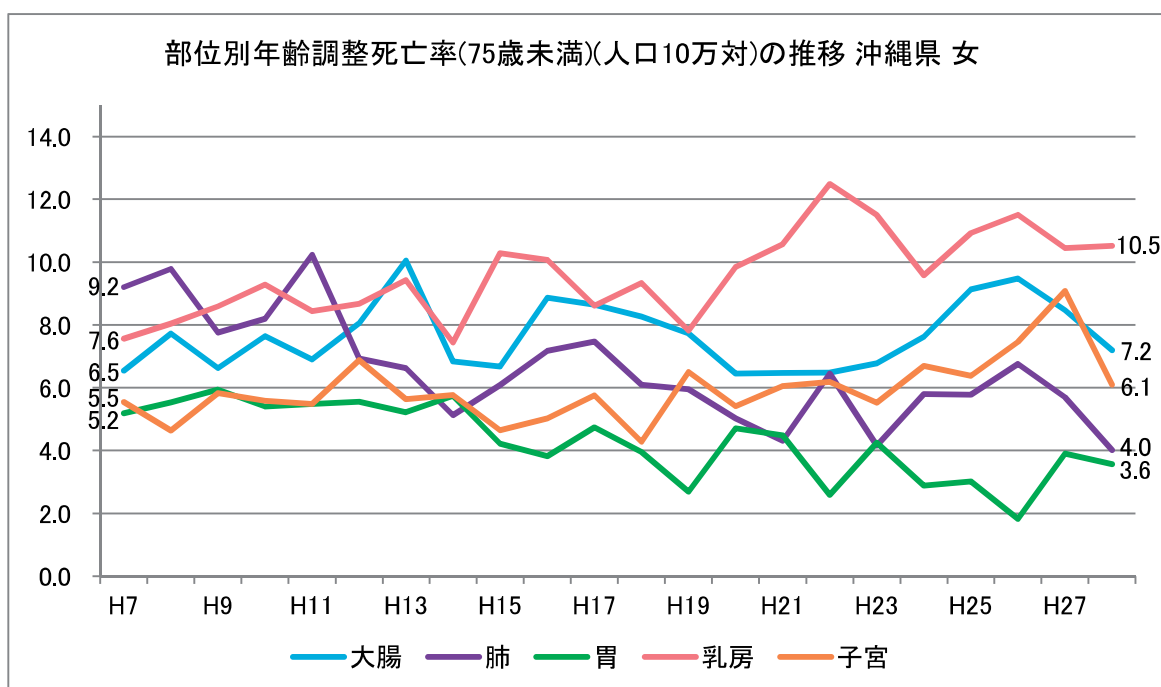
出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

男は主な部位で、肺が平成7（1995）年 36.6 から平成 28（2016）年の 18.1、胃が、18.2 から 6.6 に減少していますが、大腸は、ほぼ横ばいで推移しています。



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

女は主な部位で、乳、大腸、子宮が増加傾向、肺、胃は減少傾向にあります。また、平成 28（2016）年では、乳房 10.5、大腸 7.2、子宮 6.1 の順で高くなっています。



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」



